

日本貨物鉄道株式会社に対する業務監査の実施結果

項 目	主 な 取 組 み 状 況 等	所 見
乗継円滑化措置等 (1) 鉄道施設の改良等	・トラックと効率的な一貫輸送が可能な31フィートコンテナ等輸送の需要に合わせ、トップリフターの配備拡大を含む大型コンテナ輸送ネットワークの構築を進めている。	・31フィートコンテナ輸送等の需要拡大の誘因となるよう、今後も、大型コンテナ輸送ネットワークの構築と積極的なトップリフターの導入が望まれる。
(2) 情報提供	・現在、フレンズによる予約システム等が稼働中であるが、コンテナの位置情報等利用者利便の向上を図るため、IT－FRENS&TRACEの導入を開始し、現在、駅構内のコンテナ位置情報を一元管理するシステム（TRACE）を整備中である。今後、列車予約や情報照会がインターネットからの操作で可能となるシステム（IT－FRENS）の全面運用を平成17年1月目途に開始する予定となっている。	・現在整備中のIT－FRENS&TRACEが完成（平成17年1月目途）すれば、利用者に対するコンテナの情報提供が大幅に改善され、かつ、上限のある輸送力を有効に活用できるため、早期導入と円滑なシステム移行が望まれる。
(3) その他	・災害・事故等（以下「災害等」という。）緊急事態の発生時の連絡体制は、マニュアルに基づき、緊急事態発生場所の管轄支社（以下「発生管轄支社」という。）から本社を経由し各支社へと電話及びFAXにより行っている。また、災害等の代替輸送手段は、貨物発送支社からの要請・本社指示により、発生管轄支社が、代替輸送を利用運送事業者等に依頼している。	・災害・事故等に対する代替輸送手段の確保は、物理的にも大変難しい面があるが、JR貨物の輸送の信頼に関わる重要な要素であることから、各支社等における個々の対応事例の情報を踏まえ、常にマニュアルを見直していくとともに、災害・事故時にはマニュアルに沿って速やかに対応できるよう、普段より関係者との連携を密にしておくこと等、これまで以上の積極的な対応が必要である。